

第 12 期活動報告書

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

I 委託事業

あしや市民活動センター（以下、活動センター）の指定管理業務

1. 会館の管理運營業務（定款①）

- ・会議室 A・B・C・D を貸し出した。平均稼働率は 61%、利用料金は 831,960 円であった。2 月、3 月は改修工事のため会議室利用はなかった。

平成 30 年 4 月～平成 31 年 1 月 稼働率

	稼働日数	稼働回数	会議室 A		会議室 B		会議室 C		会議室 D		会議室 CD		合計	
			回数	稼働率 (%)	回数	稼働率 (%)	回数	稼働率 (%)	回数	稼働率 (%)	回数	回数	稼働率 (%)	
4月	24	72	56	78%	52	72%	47	65%	41	57%	19	196	68%	
5月	24	72	60	83%	58	81%	36	50%	35	49%	7	189	66%	
6月	26	78	56	72%	52	67%	47	60%	41	53%	19	196	63%	
7月	25	75	54	72%	39	52%	37	49%	38	51%	10	168	56%	
8月	26	78	39	50%	42	54%	41	53%	29	37%	16	151	48%	
9月	24	72	47	65%	47	65%	35	49%	39	54%	7	168	58%	
10月	25	75	54	72%	57	76%	41	55%	43	57%	11	195	65%	
11月	24	72	53	74%	48	67%	38	53%	38	53%	13	177	61%	
12月	22	66	47	71%	45	68%	37	56%	29	44%	9	158	60%	
1月	22	66	53	80%	48	73%	37	56%	36	55%	12	174	66%	
合計	242	726	519	71%	488	67%	396	55%	369	51%	123	1,772	61%	

平成 30 年 4 月～平成 31 年 1 月 会議室別利用料金

月	会議室A	会議室B	会議室C	会議室D	会議室CD	合計
4月	18,030	14,870	24,320	13,440	29,890	100,550
5月	20,600	11,810	24,460	22,540	8,190	87,600
6月	16,590	11,030	17,850	13,340	11,760	70,570
7月	18,000	12,640	20,090	20,620	1,750	73,100
8月	13,320	9,060	19,030	12,840	5,950	60,200
9月	15,780	16,630	21,760	25,120	6,440	85,730
10月	18,870	18,930	26,560	25,040	17,710	107,110
11月	19,470	15,890	23,900	18,160	13,350	90,770
12月	16,170	13,290	22,070	15,140	5,720	72,390
1月	16,990	17,590	19,000	21,260	9,100	83,940
合計	173,820	141,740	219,040	187,500	109,860	831,960

※同月に実際に会議室を利用した料金を表示している。

- ・ 11 月 22 日（木）普通救命講習会を開催した。
- ・ 1 月 16 日（水）公光分庁舎 2 課 1 団体による公光分庁舎合同避難訓練を行った。
- ・ NPO 関連の図書、プロジェクター、折り機等機器を無償で貸し出した。

2. 相談業務（定款②）

- ・相談総数 450 件、相談対応時間 16,605 分（276 時間 45 分）であった。その他、印刷方法や会議室利用に関する相談は年間 460 件あった。
- ・内容別では、NPO の設立や運営に関する相談 186 件、登録団体のパソコン無料相談 13 件、ボランティア希望・受入相談 96 件、助成金相談 23 件、広報に関する相談 49 件、施設に関する相談 83 件であった。
- ・年齢別では、10 歳代 0.2%、20～30 歳代 16.7%、40～50 歳代 43.9%、60 歳代以上 39.2%であった。
- ・福祉に関する相談が 61 件あり、そのうち高齢者施設へ出向いての相談が延べ 24 件に上った。毎年、施設のボランティア受入講座を開催していたが、施設の職員は多忙なため出向いてくるのが難しいという実情から今年度は訪問相談を実施した。内容としてはボランティアの受け入れのポイントや、カフェを運営する助言をした。



3. 市民活動団体の相互の交流とネットワーク支援事業（定款⑤）

- ・ 5月21日（月）から6月8日（金）まで3週間、市内3中学校の「トライやる・ウィーク」を受け入れた。（報告9頁）
- ・ 6月23日（土）第11回あしや市民活動フェスタを開催した。（報告11頁）
- ・ 7月11日（水）、9月26日（水）、1月8日（火）、3月19日（火）季刊紙封入作業登録団体による交流会（報告16頁）
- ・ 4月「公光町自治会」5月「ウィズ芦屋」6月「宇宙少年団六甲分団」7月「(特活)あしやNPOセンター」8月「リードあしや」9月「公光町自治会」10月「あしやエコクラブ」11月「アジア女性自立プロジェクト」12月「リードあしや」「1月芦屋折り鶴会」それぞれの団体がカフェを開いた。（報告20頁）
- ・ 11月10日（土）芦屋市障がい児者とのふれあい市民運動会及び会議に参加した。
- ・ 2月15日（金）指定管理の所管である芦屋市市民参画課と法人職員とで、平成31年度事業計画案を検討した。

4. セミナー事業（定款④）

- ・ 5月12日（土）、1月19日（土）初心者のためのボランティア講座（報告24頁）
- ・ 6月1日（金）NPO設立の基礎講座（報告25頁）
- ・ 11月17日（土）市民活動団体のための助成金活用講座（報告26頁）

5. 市民参画及び協働に関する情報収集と提供業務（定款②）

- ・ ホームページで芦屋市の情報や、登録団体のイベント告知等の情報を発信した。
- ・ 活動センター内で、ラック・パネルなどを活用して団体情報を掲示している。
- ・ ボランティア募集ボードや、アンケート報告を掲示している。
- ・ 市民活動関係図書を購入、整理をした。
- ・ 季刊紙「リードあしや」41号を7月9日、42号を9月25日（火）、43号1月8日（火）、44号を3月19日（火）に発行した。

6. ボランティアコーディネーション（定款⑦）

- ・ 4月7日（土）、4月8日（日）「第30回芦屋さくらまつり」のボランティアコーディネーションを担った。（報告27頁）

7. 地域課題解決の仕組みづくり会議（定款⑥）

- ・ 4月25日（水）、7月18日（金）、10月23日（火）、1月21日（月）、3月4日（月）あしや笑顔ネット会議を開き、ウィズ芦屋（障がい者作業所）山の子会（高浜1番福祉総合施設）の運営状況を共有や、次年度の運営について協議した。
- ・ 10月6日（土）日本世代間交流学会第9回大会ワークショップに「芦屋777プロ

ジェクト」として参加した。(報告 31 頁)

8. 調査研究

阪神南地区と神戸市東灘区で活動する NPO 法人の実態調査を行った。

9. 研修

- ・ 6月12日(火) 7月10日(火)「知っておきたいNPOのこと(協働編)」から協働について紐解き、解説をした。
- ・ 5月～8月にかけて計7回、次の外部研修を受け、他の職員にフィードバックした。「コミュニティビジネスのはじめかた」「長時間労働の是正等、労務管理上のリスク管理に係る研修会」「社会福祉施設等ボランティア受入れ担当者研修」「くらし・環境フェスタ in 西宮」「障がい者の命の重さ」「公共R不動産プロジェクトスタディ」「『参加の力』で創る共生社会」
- ・ 3月6日(金) 個人情報保護法について長城紀道弁護士から講義を受けた。

10. 自主事業

- ・ 8月6日(月) から10日(金)「夏休み子どもわくわくスペシャル」を開催した。(報告 32 頁)
- ・ 12月8日(土)「冬のふれあいギャラリー」を開催し、11団体が集った。(報告 37 頁)
- ・ 12月8日(土)、12月9日(日)「芦屋市障がい児者作品展」のコンシェルジュを子どもボランティアが担った。
- ・ 3月17日(日)「ウィザスフェスタ」の子どもカフェを子どもボランティアが担った。
- ・ 印刷機、コピー機を貸し出し、印刷に関する助言及び支援を行った。
- ・ 交流スペースで9団体に作品の展示、販売の場を提供した。
- ・ 利用者のくつろぎの場として自動販売機を設置し飲食の販売を行った。

平成 30 年度 施設・備品利用料収入

	印刷機	コピー機	印刷合計	ラミネート・スキャン	交流スペース利用	合計	会場費
4月	153,494	141,710	295,204	2,520	0	297,724	86,970
5月	67,554	194,990	262,544	1,650	1,200	265,394	83,310
6月	59,533	129,000	188,533	680	0	189,213	92,675
7月	42,379	194,060	236,439	7,480	2,800	246,719	77,250
8月	45,055	140,675	185,730	7,270	200	193,200	72,380
9月	61,781	146,200	207,981	2,560	200	210,741	72,550
10月	49,933	211,400	261,333	6,300	400	268,033	55,860
11月	53,910	166,250	220,160	10,300	0	230,460	75,060
12月	37,810	216,330	254,140	20,500	0	274,640	57,665
1月	34,144	147,400	181,544	7,600	0	189,144	42,620
2月	32,597	141,110	173,707	960	0	174,667	29,850
3月	58,841	185,630	244,471	5,960	2,800	253,231	34,870
合計	697,031	2,014,755	2,711,786	73,780	7,600	2,793,166	781,060

II 独自事業

1. 人材育成及び講師派遣事業（定款④）

- ・ 11月1日（木）はじめての一步助成の会議を開き、要綱等を協議した。
- ・ 講師派遣依頼を以下の通り受けた。
 - 7月19日（木）神戸市西区社会福祉協議会 西区ボランティアセンター「社会福祉施設等ボランティア受入れ担当者研修」
 - 8月30日（木）神戸市社会福祉協議会こうべ市民福祉交流センター「精神保健福祉ボランティア講座」
 - 11月29日（木）堺市社会福祉協議会東区事務所「ボランティア養成講座」
 - 1月30日（水）池田市社会福祉協議会「ボランティア講座」
- ・ NPO法20年 阪神・丹波・神戸フォーラムを阪神間で協働開催した。

2. セミナー

- ・ 5月12日（土）、7月14日（土）、9月15日（土）、11月23日（金）災害支援セミナーを津久井監事進行で開催した。（報告42頁）
- ・ 2月23日（土）「地域課題を解決するコミュニティ・ビジネス」を開催した。（報告48頁）

3. 災害支援事業（定款⑦）

- ・ 7月14日（土）兵庫ボランタリープラザ主催で、岡山県総社市の災害支援に参加した。（報告書50頁）
- ・ 7月16日（月）広島市安佐北区社会福祉協議会へ、芦屋市、商工会当法人からの支援金、センター利用者からの義援金を運び、災害ボランティアセンター運営に協力した。（報告書52頁）
- ・ 8月7日（金）芦屋市主催で、岡山県倉敷市の災害支援に参加した。（報告書54頁）

4. 情報提供事業（定款②）

- ・ 6月30日（土）にNPOセンター通信9号を発行し会員及び他団体へ郵送した。
- ・ 法人のホームページ市民活動団体の発信力、社会的認知を高めるために、イベント情報の掲載や動画をアップした。
- ・ 毎月1日にメールマガジンをアップした。

- ・法人の Facebook を利用し、事業内容を都度アップした。
- ・ 7 月 10 日（火）地域福祉課あしや発信玉手箱ワーキンググループの会議で、ためまっぶ芦屋の紹介をした。

5. 各団体の委員を担う。

- ・ 4 月 4 日（水） 7 月 4 日（水） 10 月 3 日（水） みどり地域生活支援センター運営会議出席
- ・ 5 月 30 日（水） 社会を明るくする運動の会議に出席
- ・ 6 月 6 日（水） 7 月 20 日（金） 災害救援ボランティア活動支援関係団体訓練 WG
- ・ 7 月 12 日（木） 8 月 20 日（月） 10 月 9 日（火） 障がい児者作品展会議出席
- ・ 8 月 3 日（金） 地域福祉課 福祉審議会出席
- ・ 8 月 7 日（火） 第 1 回女性活躍推進会議出席
- ・ 10 月 18 日（木） 12 月 20 日（木） 芦屋市障がい児者とのふれあい市民運動会会議出席
- ・ 10 月 30 日（火） 西宮市民交流センター運営委員会出席

6. 他団体への後援・協力（定款⑤）

- ・ 5 月 30 日（水）、 7 月 13 日（金）、 7 月 27 日（金） 社会を明るくする運動
- ・ 6 月 22 日（金） 第 4 回食のセーフティネット実務者による研修会
- ・ メールマガジン等で市民団体の広報支援
- ・ 8 月 31 日（金） みどり地域生活支援センター盆踊り

7. 組織運営 理事会等

- ・ 平成 30 年 4 月 17 日（火） 第 1 回理事会 総会開催内容討議
- ・ 平成 30 年 4 月 17 日（火） 平成 29 年度監査
- ・ 平成 30 年 5 月 12 日（土） 第 11 期通常総会
- ・ 平成 30 年 5 月 12 日（土） 第 2 回理事会 正副理事長選任
- ・ 平成 30 年 5 月 12 日（土） 会員、賛助会員対象の研修会
- ・ 平成 30 年 8 月 29 日（水） 第 3 回理事会 指定管理事業関連の審議
- ・ 平成 31 年 1 月 24 日（木） 第 4 回理事会 平成 31 年度事業企画事務局案審議
- ・ 事務局会議：毎月 1 回全員出席で開催。毎朝 10 分程度の朝礼
- ・ 指定管理者企画会議：毎月 1 回、市民参画課と指定管理事業内容の確認

「普通救命講習会」報告書

1 参加者：市民参画課 2名 リードあしや 3名 一般 2名 計 7名

2 実施日：平成 30 年 11 月 22 日（木）13 時 30 分～16 時 00 分

3 担 当：出口

4 内容について

- ・ 芦屋市消防本部の現状・救急出動体制について話を聞く。
- ・ 心肺蘇生の手順を学び、実技を行う。
- ・ A E D の使用方法を学び、A E D を使用しながらの心肺蘇生の実技を行う。
- ・ その他の応急処置を習う。（窒息、出血の止血、骨折、やけど、熱中症等）
- ・ 質疑応答（座位状態の対応、土地勘がない場所での救急要請の仕方等）

5 参加者の感想

- ・ 7人中初めて講習を受けた方は1名。
- ・ 以前に受けたことがあっても忘れていた。
- ・ 講師の説明が丁寧で分かりやすかった。
- ・ A E D 使用中も胸部圧迫をすることはとても大変である。
- ・ 救急車が来るまでに協力してくれる人を集めることが大変である。
- ・ A E D 機器の中身が何のために必要かが理解できた。
- ・ ポイントがよく理解できた。

6 担当者の感想

- ・ 職員研修としているにも関わらず、分庁舎職員の参加がなかった。
- ・ 講師である隊員の説明が、大変丁寧で説明もわかりやすかった。

7 今後の対応

公光分庁舎合同研修としているが、分庁舎職員の参加がなかった。今後合同研修として必要なのか、防災合同会議で検討したい。



「公光分庁舎合同避難訓練」報告書

- 1 日 時：平成 31 年 1 月 16 日（水）10：00～11：00
- 2 参加者：職員 7 名（内 1 名市民参画課）・当日会館利用者 35 名
他、芦屋市経済振興課・芦屋市男女共同参画推進課
- 3 内容：公光分庁舎南館 2 階給湯室にて出火
 - ・出火場所確認
 - ・職員は各担当の活動を行い、避難訓練をする。（役割分担表参照）
 - ・水消火器で使い方を学ぶ。
 - ・消防本部より訓練についての講評を聞く。
- 4 全体の振り返り
 - ①初期消火について
 - ・男女共同参画推進課より火災発生の知らせは確認できたが、出火場所の確認できなかった。
 - ②避難誘導について
 - ・会議室利用者が多く、実際の火災の場合予想以上に時間がかかると感じた。
 - ・経済課が避難誘導応援に来てくれたが、誘導というより見守りだったので、こちらからの指示が必要であると感じた。
 - ③その他
 - ・避難訓練終了後の消火訓練の参加は会議室利用者にはおらず、職員のみであった。
- 5 担当者の振り返り
 - ・会議室利用者がたくさん参加してくれた。
 - ・今回は事前打ち合わせなしでの実施であり、訓練開始後役割を確認した。職員が火災発生時にどの役割でもできるように日頃から内容をしっかり把握しておく必要があると感じた。



トライやる・ウィーク受入事業報告

- 1 日時：平成30年5月21日（月）～6月8日（金）9時～15時 10時～16時
- 2 担当：橋野 浩美
- 3 学校：山手中学校2人 潮見中学校3人 精道中学校3人
- 4 協力団体：（社福）三田谷治療教育、（認特）フードバンク関西
- 5 目的：ボランティア、NPOとは何かを理解してもらい、市民活動団体の支援の場である市民活動センターの存在を若い世代から理解していただくこと。
- 6 内容：NPOとは（NPO団体の活動体験と座学）
センターの機能を知る。（センター内ふしぎ発見と機器体験等）
ボランティアとは（障がい者施設の訪問と座学）
企画会議体験やコミュニティビジネス企画立案
成果発表会（最終日）
- 7 評価：昨年度同様に他団体の協力もあり、計画は全体的に充実していた。
他団体訪問により、団体同士等を繋げることや団体への支援など、当センターの役割に触れ理解していただいた様子だった。
名刺作成や、企画立案の実体験など初めてのことは、戸惑いながらも楽しみ、学び、市職員に協力をいただき名刺交換の場も持て良い体験となった。
今年度は、コミュニティビジネスや、イベントの企画を作り上げる体験を通して考える力と達成感を得たようであった。
当センターの職員の学びの場ともなったが、盛り込み過ぎた感があった。
- 8 成果：他団体訪問のレポートや、日々の振り返り、成果発表会から、ボランティア、NPOについてほぼ理解していることがわかった。生徒の毎日の日誌には、保護者のコメントもあり、生徒からは保護者とよく話をしていることを伺い、当センターのことも知ってもらったように思えた。また、ボランティアにも興味を持ち、参加、参画の意思が伺えた。
- 9 振り返り：今後、彼らが市民活動に興味を持ち、このセンターを利用していくことを期待している。
毎朝のオリエンテーションと終了の振り返りは、専任し、プログラム毎に担当で分担しすすめたことで職員の研修にもなった。来年度は、他団体訪問も全職員であたりたいと考える。



山手中学校 (5月21日～5月25日)



潮見中学校 (5月28日～6月1日)



精道中学校 (6月4日～6月8日)

第 11 回あしや市民活動フェスタ実施報告

- 1 実施日：平成 30 年 6 月 23 日（土）
- 2 担当：横山 宗助
- 3 参加者数：58 名
- 4 内 容
 - (1) 目 的：芦屋への想いを若者と市民活動団体が、A11 芦屋で知恵を出し合い語り合い、アイデアを実現し、次世代へつなぐ。
 - (2) テーマ：あなたは“まちの何がかり”？
 - (3) 内 容：10:30～ 開会
11:00～ 基調講演 「BE の肩書きって？」 兼松 佳宏氏
（京都精華大学特任講師、元 greenz.jp 編集長）
11:45～ クロストーク 「まちには“何がかり”がある？」
三宅 正弘氏（武庫川女子大学 准教授）
加藤 裕介氏（Ashiya.city 編集長）
12:30～ ランチダイアログ
13:15～ ワークショップ
16:00 閉会
～16:30 写真撮影
 - (4) アンケート結果：
 - ・有意義な時間を過ごせました。
 - ・西宮市の NPO 部会とは大違いです。
 - ・ただ話を聞くだけではなく、考え、人からの意見をもらえるのがとても良かったです！
 - ・自分の隠れた部分が見ることができてよかったです。
 - ・自分のことを語る機会があまりないので良い経験になりました。
 - ・日常使わない脳、感性がフル稼働した感じ。良い気付きとなった。
 - ・チラシのデザインが良かったです。
 - ・有意義で楽しい時をありがとうございます。
 - ・全体的に和やかな雰囲気です。スタッフの対応が素晴らしい。
 - ・長時間だったが短く感じました。
 - ・説明、ワークショップとも分かりやすかったです。
 - ・沢山の方と意見交換できる機会となりました。ありがとうございました。
 - ・兼松先生はものすごくよかったです（実はたいてい講師なんて嫌いなんです）ワークの進め方もよかったですし、スタッフもみんな良かったと思います。イベントの持ち方が明確なのでやる気のある人が集まったと思います。
 - ・チラシがすごくかわいくて良かったです。スタッフは大変だったと思います。ありがとうございました。ご苦勞に報いられるよう少しでもステップ

アップしたいです。

- 半生を振り返ることで幼少期のことがベースになっていたことが分かったような気がする。
- BE から DO の肩書きが見つかった気がします。とても流れのよい講座でした。兼松先生ありがとうございました。
- 芦屋にセレブの街みたいな上っ面な会議だとつまらなさそうだけど、人の内側をみていくのが面白かったです。それがどうまちと関わっていくのかなと興味深々でした。
- 同じ星座の人とグループになるというのも斬新だったし、そのグループの人が思いがけない共通点があって面白かったです。
- はじめてのトライ。自分の整理ができました。
- 行政の人も参加されていて、芦屋のまちの未来が明るいと思いました。
- 無から形をつくりだしていく、地域の魅力を引き出していく。集うことで生み出せる可能性を実感できる場となった。
- とても楽しくあっという間の時間でした。またこの機会があったら関わっていきたいと思います。
- 楽しかったです。魚座の3人の出会いも印象深いです。ありがとうございました。
- まちの福祉家見習い。目指したいです。地域支え合い推進員として頑張りたいです。
- ワークショップ楽しく参加できました。
- スタッフがいい。
- 自分も含めて皆さん元気で活気ある時間になりました。団体ではなく個人で参加するのはいいですね。
- 自分自身の信念と今やっていることの満足感。
- 視座を変え、視点を変えて自分自身の活動の見直しが出来ると感じた。芦屋らしい活動のやり方を工夫したい。
- 自分を見直す自分が他との関わりを見直す、自分のコミュニティでの関わり方を再確認する。しいては自団体の地域での関わりについて新しい発見があったように思います。
- 新しい視点の講座がとても新鮮で考え方の手法も面白かったです。
- 楽しかったです。自分の人生を振り返り、今の自分の関心ややりたいこと

を整理することができました。

- ・今日の出会いを今後につなげていきたいです。
- ・大満足。時間があつたという間でした。自分の再発見になりました。いろいろな方々と交流ができてとても楽しかったです。
- ・個人でできることは限られていますが、より良い活動のために私ができることがあれば、と思っています。全くお話ができなかった方も多数いらっしやっただのが残念でした。
- ・自分の知らなかった「わたし」に出会えた。BE と DO が混合している人生だったがそれも幸せなことだなあと感じた。
- ・「わたしはこういう人間だろう」とおもっていても人から見るとまだまだ知らない部分があつたことに気づいた。いろいろな側面があり。
- ・いろいろの人の出会いがあつて楽しかったです。元気をもらいました。自分の BE の部分が小さくなっていたので大きくできたらいいなと思いました。
- ・基調講演の内容やワークショップとても勉強になりました。また芦屋に来て4年目でなかなか芦屋市民の方と交流する機会があまりなかったのでこのような機会があつたことが嬉しかったです。
- ・気軽に参加者の思いや気持ちを引き出せる内容であることに感心した。
- ・BE!!と DO!!新しい発見です。
- ・楽しい時間でした。
- ・充実してて自分を客観的にみれてよかった。
- ・とてもよかったです。またこのような楽しいイベントを楽しみにしています。
- ・兼松さんの世界と芦屋のまちのことだけかと思ってましたが参加者のまちのかかわり、かかわり方を知ることができてとてもよかったです。
- ・姫路からの参加ですのでなかなか関われそうになく残念です。今日は勉強になりました。ありがとうございました。
- ・兼松先生の「BE」の考え方で心の整理がついた。
- ・兼松先生の講義をまた受けたい。
- ・皆が楽しみながら会議に参加していたし、何より私がすごく楽しかった！！
- ・めっちゃ良い企画。考えたスタッフの方々お疲れ様でした。
- ・BE の部分を振り返り続けるという言葉が印象的でした。自分の根幹となる部分を作っていると思うので自己分析をしていきたいと思いました。

- ・深いコミュニケーションがとれたと思う。

(5) 効果：

- ・参加者同士のつながりが多くできた。
- ・市民活動をスタートするきっかけとなった参加者がいた。
- ・多岐にわたる活動、想いを整理できた参加者がいた。
- ・リードあしやの認知度が上がった。

(6) 今後の対応：

- ・当日の様子を 10 分以内のダイジェスト版動画にまとめ、youtube 等にアップして、さらなる拡散を行い参加できなかった人にも伝えていく。
- ・当日、ワークショップで決めた〇〇係を写真撮影しているので、ネットワークをさらに広げたり、市民活動を促進するため、小冊子にまとめる。
- ・参加者が市民活動をはじめるにあたっての個別相談にも対応する。
- ・参加者で類似の〇〇係があるのでマッチングを行う。
- ・ふれあいカフェ 7/14（土）に参加者の振り返りの場を設ける。

(7) 事務局振り返り

<良かったこと>

- ・基調講演のテーマ「BE の肩書き」を参加者に理解してもらうこと、またそれがなぜ市民活動につながるのかを伝えることがうまくできた。
- ・開催時間が 6 時間〜と長かったが、内容が充実しており、また随所に飽きさせない工夫をしていたので、体感時間は短かったという意見が多かった。
- ・ターゲットにしていた 30, 40 代、フリーランス、アクティブシニア、普段リードあしやに来館しない人などが多くみられ、新たな層の開拓となった。
- ・グラフィックレコーディング、フェイスブック宣伝、グーグルフォームなど新しい取り組み、集客ができた。

(フェイスブックイベント>リーチ 3975 回答数 113)

- ・フェスタ開催後も SNS 等で話題となり多くの拡散ができたため、リードあしや、市民活動フェスタの認知度が上がった。
- ・昨年の反省を活かし、学生の割合が少なかったので実際に市民活動をしている、する人が主体となった。

<悪かったこと>

- ・クロストークの打ち合わせがほとんどできず、ぶっつけ本番となったので「芦屋のまちのことを知ってもらう」ことはあまりできなかった。
- ・約半数は市外に住む人からの参加だった（芦屋を職場にしている人など）
- ・当日受付をしなかったため、参加状況の把握が難しかった。



季刊紙「リードあしや (41号)」封入作業・交流会 報告

- 1 日時：平成30年7月11日(水) 14時～16時
- 2 担当：阿部 直子
- 3 参加団体：NPO 法人遺言相続相談所ひょうご (1名)
リレー・フォー・ライフ・ジャパン芦屋実行委員会 (2名)
- 4 目的：季刊紙郵送の際に、登録団体のチラシを同封し事業の広報としての活用
- 5 内容：チラシの同封希望団体から1人、封入作業にご参加いただき、休憩時に各団体が同封チラシの事業内容や団体について紹介し交流を深めた。
- 6 評価：今回のチラシ封入作業は合計3名と職員での作業だったが、作業に慣れた参加者ばかりで円滑に進み、時間内に終わることができた。休憩時間中には、参加者に事業内容・団体についての紹介をしてもらった。また「ためまっぷ」の利用方法を実際に見てもらうなどと有意義な時間となった。
- 7 成果：参加者がお互いの事業に興味を持ち、理解を深めた。他団体の事業方法から事業について参考になるヒントが得られたのではと思う。「ためまっぷ」を熟知した参加者が他団体に説明し周知できた。また「季刊紙にチラシを同封できるので、封入作業は喜んで参加している」という意見を頂いた。
- 8 振り返り：これからも、喜んで参加してもらえる封入作業の時間・交流の場となるように下準備をしていく。休憩時の交流会では、参加者が自団体の紹介を生き生きとしていたことが印象的だった。これからも参加者には積極的に話してもらい交流を深めてもらう。次回は登録団体としての当センターの利用方法などの話も改めてしたい。他の職員からも休憩時の飲み物の準備や季刊紙の封入作業の進み具合の確認などもあり、とても助かった。

季刊紙「リードあしや (42号)」封入作業・交流会 報告

- 1 日時：平成30年9月26日(水) 14時から16時
- 2 参加団体：NPO 法人 遺言相続相談所ひょうご (1名) (特活) キャンビズ (2名)
NPO 法人 相続遺言交通事故支援センター (1名) ランサーン会 (3名)
認定NPO 法人 フードバンク関西 (4名) 芦屋「九条の会」 (1名)
(特活) あしやNPOセンター (1名)
- 目的：季刊紙郵送の際に、登録団体のチラシを同封し事業の広報として活用し、団体の交流の場として団体を繋いでいく。
- 内容：チラシの同封希望団体から最低1人1時間、封入作業に協力することを条

件に参加頂き、休憩時には各団体が同封チラシの事業内容・団体について紹介・情報交換をして交流を深めた。

評価：チラシ封入作業は7団体・13名の参加者があり円滑に進んだので、交流会の時間を長くとることができた。参加者に事業内容・団体についての紹介をしてもらい、中には「ためまっぷ」を熟知された方がおり、利用方法を説明するなど有意義な時間が過ごせた。

成果：団体がお互いの事業に興味を持ち交流ができた。特にランサーン会がラオスの現状を紹介時には、電気などのライフライン・スマートフォンの普及についてなどの多くの質問があり、興味を持って頂いた。当日は交流スペースにて展示中だったランサーン会の活動内容を見て帰る方がいた。

また、あしやNPOセンターのFacebookに封入作業・交流会の様子の写真を投稿し、参加者からはコメントと「いいね」を頂いた。

振り返り：参加人数が多い場合は封入作業の準備を過剰にしないなど、調整を心掛ける。参加者の緊張をほぐす方法や話の進め方などを考慮し、更に有意義な交流会になるようにする。

封入作業の様子



交流会の様子



季刊紙「リードあしや（43号）」封入作業・交流会 報告

- 1 日 時：平成31年1月8日（火）14時～16時
- 2 参加団体：5団体5名（NPO法人 遺言相続相談所ひょうご、NPO法人 相続遺言交通事故支援センター、芦屋T i oクラブ、ときわ会、（特活）あしやNPOセンター）
- 3 目 的：季刊紙郵送の際に、登録団体の広報支援として活用し、団体の交流の場として団体を繋いでいく。
- 4 内 容：チラシの同封希望団体から封入作業に協力することを条件に参加頂き、休憩時には各団体の事業内容など情報交換し、交流を深める。
- 5 評 価：今回参加の団体は、以前にも参加していただいた団体ばかりだったので、作業の流れを熟知していて、作業がスムーズに進んだ。作業分担も参加者同士で話し合っている場面が見られた。
- 6 成 果：交流会に関しては、今回はほぼ男性の参加にも関わらず団体状況等伝えたい内容が多くとても話がはずんだ。交流会を楽しみにしている団体も増えてきている。
- 7 振り返り：封入条件である封入部数380部、750部が少し多いという団体もあり、少ない部数の封入も検討したい。そうすることで参加団体も増えると考えられる。

当日の様子



季刊紙「リードあしや（44号）」封入作業・交流会 報告

- 1 日 時：平成31年3月19日（火）14時～16時
- 2 参加団体：7団体9名（阪神南県民センター、（一社）相続総合相談センター芦屋支部、芦屋「九条の会」、リレーフォーライフ芦屋実行委員会、NPO法人あっとオーティズム、NPO法人遺言相続専門家相談所ひょうご、あしや市民活動センター）
- 3 目的：季刊紙郵送の際に、登録団体の広報支援として活用し、団体の交流の場として団体を繋いでいく。
- 4 内容：チラシの同封希望団体から封入作業に協力することを条件に参加頂き、休憩時には各団体の事業内容など情報交換し、交流を深める。
- 5 評価：季刊紙への同封希望団体が定着し、封入時期にイベントや講座の日程を合わせる団体もある。各団体が広報活動として上手に活用してきている。
- 6 成果：今回はイベントの紹介だけではなく、団体の活動内容や団体の思いなどを紹介する団体があった。活動内容や目的などを知ってもらう良い機会にもなった。
- 7 振り返り：季刊紙の発行日を年間である程度決めておくことで、団体のイベント日程やチラシ封入の計画が立てやすくなるのではないかと考えられる。

当日の様子



「ふれあいカフェ」年間報告書

1. 日時：毎月第2土曜日 13：30～16：00
2. 参加団体、内容：8団体（実績表参照）
3. 参加者人数：大人293人、子ども187人、プログラム参加者151人
4. 参加者からの振り返り
 - ・和やかな雰囲気でお話もはずんでいました。
 - ・地域の方の意見や事業所にとって地域に根差す方法など生の声を頂くことができました。
 - ・広報の仕方に工夫を。
 - ・展示のみだったので、もっと盛り上がる仕掛けを用意しておいても良かった。
 - ・宣伝の仕方、カフェの見せ方などを自分たちで考え、相談することができた。
 - ・貴重なお話を聞くことができ心温まるひとときを過ごせたように思いました。
 - ・脳トレになったとの感想をいただいた（折り紙）参加者に喜んでもらえる、取り組みやすい折り紙を考えていきたいと思います。
 - ・他のNPO法人の授産品をカフェで提供しました。私たちの活動と合わせて知っていただけたらと思いました。
 - ・市民と市民活動団体がイベントを通して交流を図ることができた。
 - ・運営人数が少なかったため、他の団体と一緒に実施しカフェとプログラムを分担してやりたい。
5. 全体の振り返り
 - ・各団体と打ち合わせはスムーズにできた。
 - ・広報について、広報あしやへの掲載記事〆切が実施月の2カ月前なので、団体プログラムの内容が決まっていなかったことが多かった。
 - ・実施団体の中には、カフェ、プログラム共に1人で運営し職員が手伝うことがあった。
6. 今後の対応
 - ・実施団体が自ら広報を行い、集客できる仕組みを考える。
 - ・1階キッチンを利用して手作りのお菓子など提供できるよう、保健所へ相談に行く。

7. 実施の様子



4月公光町自治会



5月ウイズ芦屋



6月日本宇宙少年団六甲分団



7月リードあしや



8月子どもボランティア



9月公光町自治会・公寿会



10月あしやエコクラブ



11月アジア女性自立プロジェクト



12月ふれあいギャラリー



1月芦屋折り鶴会

ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書
記入者 瀬野 万里子

団体名	公美町 自治会
代表者	山上 千夏子
担当	瀬野 万里子
実施日	平成 30年 4月 14日(土)
内容	(カフェメニュー) コーヒー、紅茶、抹茶、オレンジジュース、菓子
	(パフォーマンス内容) 3色パスカルアートで春の風景を描く
参加人数	(カフェ) 大人 27 名・子ども 1 名
	(パフォーマンス) 参加者 10 名

ご感想をお書きください。

カフェについて
お茶の雰囲気でお話もはかばかしく、手作りのわらびもちやお茶の団子等を差し入れて頂いたので、

パフォーマンスについて
10名の方(お子様からご年配の方まで)にご参加頂きました。初参加の方が99名ですが、皆様パスカルに親しみながら絵画制作を楽しまれました。

お連れしてきました。ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書
記入者 飯田 真三

団体名	ウィズ声楽
代表者	水島 寛二
担当	飯田 真三
実施日	2018.5.12
内容	(カフェメニュー) アイスコーヒー、プアプア
	(パフォーマンス内容) 音楽隊と声楽家(ウィズ声楽の活動を披露して)
参加人数	(カフェ) 大人 8名・子ども 6 名
	(パフォーマンス) 参加者 14名

ご感想をお書きください。

カフェについて
飲食品より手作りスイーツが好評で、カフェ参加以外の方も購入してくれました。

パフォーマンスについて
発達障害、精神障害のこと、生活支援について話し合うことができたことも、地域の方の意見や要望等によって地域に貢献するお茶会が実現することが出来ました。

ふれあいカフェでの貴団体の目的は達成できましたか?
できた だいたいできた あまりできなかった できなかった
 (できなかった理由)

お連れしてきました。ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書
記入者 大塚 遼平

団体名	日本児童少年団六甲分団
代表者	大塚 遼平
担当	同上
実施日	6月 9日
内容	(カフェメニュー) 宇宙カフェ
	(パフォーマンス内容) ① バルーンロケット製作、射撃で ② ペンシルロケット製作、射撃で
参加人数	(カフェ) 11大人 11名・子ども 1 名
	(パフォーマンス) 参加者 4 名

ご感想をお書きください。

カフェについて
① 飲物は少し準備し、菓子は準備が不備だった。
② カフェとワークショップは同じ会場を確保。

パフォーマンスについて
① 参加者や事務局で不備があった。
② 広報の方にエッセイ (感想準備のため)
③ 他団体との連携を続ける。田舎に行きやすい

ふれあいカフェでの貴団体の目的は達成できましたか?
できた だいたいできた あまりできなかった できなかった
 (できなかった理由)

お連れしてきました。ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書
記入者 藤山 宗助

団体名	あじ野市民活動センター
代表者	藤野 三智美
担当	藤山 宗助
実施日	H28年 7月 14日
内容	(カフェメニュー) コーヒー(ホット、アイス) シス、菓子(お茶)
	(パフォーマンス内容) 6月実施のあじ野市民活動センター「あじ野市民活動センター」
参加人数	(カフェ) 大人 10名・子ども 6 名
	(パフォーマンス) 参加者 9名

ご感想をお書きください。

カフェについて
① 飲み物 = 種類 = 7種類と多すぎた。お茶の準備も不十分だった。
(お茶の準備 = 茶、お茶の準備、お茶の準備)
② 会場 = 飲み物 = 準備が不十分だった。

パフォーマンスについて
発表 = 発表 = 発表。お茶の準備は準備が不十分だった。
発表 = 発表 = 発表。

ふれあいカフェでの貴団体の目的は達成できましたか?
できた だいたいできた あまりできなかった できなかった
 (できなかった理由)

お連れしてきました。ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書

記名者 山口 晴子

団体名	ふれあいカフェ運営委員会
代表者	藤野 晴美
担当者	山口 晴子
実施日	平成30年8月6日(月)～8月10日(金) 5日間
内容	(カフェメニュー) お茶・パン・ジュース・お菓子・お花 (パフォーマンス内容) 夏休みの思い出(2人3人)のクイズ・お花 か・お花・お菓子・お花・お花
参加人数	(カフェ) 大人 11名 小・中学生 6名 (パフォーマンス) 参加者 30名

ご感想をお書きください。

カフェについて
お茶やお菓子が美味しい。パフォーマンスもいろいろあって、楽しかった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

パフォーマンスについて
お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

ふれあいカフェでの費用等の負担は達成できましたか？
口でできた 口でいたいできた 口あまりできなかった 口できなかった
(できなかった理由)

お疲れさまでした。ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書

記名者 松岡・遊高

団体名	公益財団法人 公益財団法人
代表者	松岡 彦 宇野 遊高
担当者	松岡 彦
実施日	平成30年9月8日(土)
内容	(カフェメニュー) お茶・お菓子・お花・お花・お花 (パフォーマンス内容) お花・お花・お花・お花・お花
参加人数	(カフェ) 大人 3名 小・中学生 5名 (パフォーマンス) 参加者 3名

ご感想をお書きください。

カフェについて
お茶とお菓子が美味しい。パフォーマンスもいろいろあって、楽しかった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

パフォーマンスについて
お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

ふれあいカフェでの費用等の負担は達成できましたか？
口でできた 口でいたいできた 口あまりできなかった 口できなかった
(できなかった理由)

お疲れさまでした。ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書

記名者 若野 順子

団体名	ふれあいカフェ運営委員会
代表者	若野 順子
担当者	若野 順子
実施日	平成30年10月13日
内容	(カフェメニュー) お茶・お菓子・お花 (パフォーマンス内容) お花・お花・お花・お花・お花
参加人数	(カフェ) 大人 8名 小・中学生 0名 (パフォーマンス) 参加者 5名

ご感想をお書きください。

カフェについて
お茶とお菓子が美味しい。パフォーマンスもいろいろあって、楽しかった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

パフォーマンスについて
お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

ふれあいカフェでの費用等の負担は達成できましたか？
口でできた 口でいたいできた 口あまりできなかった 口できなかった
(できなかった理由)

お疲れさまでした。ふれあいカフェ

ふれあいカフェ報告書

記名者 若野 順子

団体名	ふれあいカフェ運営委員会
代表者	若野 順子
担当者	若野 順子
実施日	平成30年11月10日
内容	(カフェメニュー) お茶・お菓子・お花 (パフォーマンス内容) お花・お花・お花・お花・お花
参加人数	(カフェ) 大人 7名 小・中学生 5名 (パフォーマンス) 参加者 5名

ご感想をお書きください。

カフェについて
お茶とお菓子が美味しい。パフォーマンスもいろいろあって、楽しかった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

パフォーマンスについて
お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。お花の飾りも素敵だった。

ふれあいカフェでの費用等の負担は達成できましたか？
口でできた 口でいたいできた 口あまりできなかった 口できなかった
(できなかった理由)

お疲れさまでした。ふれあいカフェ

はじめてみよう 初心者のためのボランティア講座実施報告

- 1 実施日：平成30年5月12日（土）
- 2 担当：奈良 雅美
- 3 参加者数：3名
- 4 目的：ボランティアの基本的な知識を学び、市民活動に参加する市民を増やす
- 5 講師：奈良雅美
- 6 配布資料：チラシ、レジメ、活動先資料
- 7 概要：
 - ① ボランティアについてのレクチャー
ボランティアの意義、活動分野の広がり、自分に合ったボランティアの見つけ方、ボランティアの社会的な意味、継続するためのコツ 他
 - ② 具体的な活動の紹介
芦屋市内の活動（花苗植え替えの単発ボランティア、日本語ボランティア養成講座、フードバンク関西、障害者施設、在住外国人支援、認知症カフェ運営、一人一役活動制度、など）を紹介。
- 8 参加者アンケート：(回答3件)
 - ・ボランティアについての理解（よくわかった3件）
 - ・やってみたい活動がみつきりそうか（将来やってみたい3件）自由記述：
 - ・大変理解しやすい説明でした。
 - ・ボランティアについていろいろな角度からお話を聞かせていただき、ありがとうございました。
- 9 担当者所感・今後の対応
 - ・芦屋市域のボランティア情報が不足しているので、発掘に力を入れたい。
 - ・過去の参加者もあわせて、ボランティア希望者にメールで適宜ボランティア情報を発信するようにし、講座後も活動先を探せるように工夫する。

NPO 設立の基礎講座実施報告

- 1 実施日：平成 30 年 6 月 1 日（金）17：30～19：30
- 2 担当：奈良 雅美
- 3 参加者数：2 名（参加費 2,000 円）
- 4 目的：NPO 法人の設立を検討する団体向けに、法人設立の基本を学ぶ。
- 5 講師：奈良雅美
- 6 配布資料：レジメ、参照資料、特定非営利活動促進法 他
- 7 内容：
 - ① NPO とは
 - ② NPO 法人を取得する意味
 - ③ 特定非営利活動分野に係る事業
 - ④ 設立手続き
 - ⑤ 情報公開
 - ⑥ 認証を受けた後
- 8 参加者アンケート：
 - ・ NPO の設立について理解できたか？
よくわかった 1 人 だいたい分かった 1 人
 - ・ NPO（法人）の設立に向けて具体的な見通しがついたか
見通しがついた 1 人 見通しがつきそう 1 人
- 9 振り返り
 - ・ 他地域からの参加者 1 名あった。地元よりも他地域の方が気軽に相談しやすいとのこと。今後も他地域も含めて門戸を広げておきたい。
 - ・ 勤めの人でも参加しやすいのではと考え、夜間に開催したが、特に参加者の反応はない。都心部ではないので、夜間開催のニーズは（テーマにもよるが）あまりないかも知れない。
 - ・ NPO 法人のチェックは市民の役割、との説明をしたところ、市民のチェックが機能しているのか、との質問。法施行から 20 年経つものの未だ市民の現実の力と制度の期待とのギャップがあることを説明。「市民力」もまた課題の 1 つだ。

市民活動団体のための助成金活用講座

- 1 実施日：平成 30 年 11 月 17 日（土）10：00～12：00
- 2 担当：奈良雅美
- 3 参加者数：3 名（参加費収入 3,000 円）＊申込 4 名
- 4 目的：助成金を自団体で効果的に活用するためのコツを体系的に学ぶ
- 5 講師：奈良雅美
- 6 内容：概論として、資金開拓の考え方、助成金とは、申請書類に求められること、分かりやすく伝えるポイント、助成金情報などを説明した。また、個別の質問を受けながら、助成金の問題にとどまらず、組織の事業そのものの在り方も取り上げた。講座後に個別の質問にも応じた。
- 7 参加者の感想：
 - ・何も予備知識がない状態で参加したので助成金の概要をおぼろげながら理解できた。自分達の活動にどう助成金をつなげていけるか、とっかかりをつかんだ。
 - ・助成金は魅力的だが、事務手続きが必要なので体制をしっかりとる必要がある。一人体制なので性急に進めずまず体制づくり等準備が大事だとわかった。
 - ・初めて助成金の話しを聞いた。申請書を書くことによって（団体・事業の）課題がはっきりしてくる。整理ができるとわかった。まず書いてみようと思った。
- 8 担当者の振り返り

助成金申請は難しい、手間がかかる、などのイメージがある。また助成金を単なる資金獲得の方法と捉えていると、採択されるのは難しい。事業や団体の成長につながる投資的意味合いでとらえていく必要性を感じてもらえたのではないかな。

参加者は少なかったが参加者同士が対話しやすい雰囲気になり、お互いにアイデアや助言を与えあった。今後のつながりも期待できる様子も見られた。助成金は、財源開拓、財源構成の中で考える必要がある。そのため今後の伴走的支援を求める声があった。可能な限り継続して支援していきたい。



以上

第30回芦屋さくらまつり清掃ボランティアコーディネート

- 1 実施日：4月7日（土）8時～21時・8日（日）8時30分～22時
4月9日（月）9時30分～22時
- 2 担当者：金子 美保
- 3 参加者：68名（内実行委員9人 個人8人 学生9人）
- 4 参加団体：6団体（朝日ヶ丘町自主防災会、尼崎信用金庫阪神芦屋支店・芦屋支店、AC29期会お掃除クラブ、AC30期、AC31期さんいち会、芦屋ガールスカウト）協力：コープこうべ第2地区、芦屋市教育委員会

5. 活動内容

- ・清掃ボランティア実行委員会を1月17日（水）発足
構成は、大学生6人、高校生2人、職員4人。
会議を重ね、4月1日（日）にオリエンテーションを開催した。
当日は、ボランティア説明、作業中の休憩所の運営と、おでんの配食に努めた。
- ・ゴミ箱とゴミステーションを設け、分別の徹底と啓発に努めた。

6. 振り返り

【実行委員会】

- ・大学生6人、高校生3人の構成であったが、主力となるメンバーが5人であり、啓発とゴミ回収に回るものが足りてないように見えた。
- ・当日ボランティアへの「おでん」の配食は好評だった。
- ・出店ブースは強風対策に追われた。

【活動全般】

- ・天候に恵まれず、寒いイベントであったため、来場者が少なく、ゴミの量も少なめだった。川の中へ飛ばされるものは多かった。
- ・近隣の町内にもゴミを落としているケースはなかったが、松ノ内町の店舗前に捨てられていたケースがあった。

【出店者】

- ・ゴミステーションの利用ではなく、会場内設置のゴミ箱に捨てていた団体があった。（芦屋市カヌー協会、芦屋経済人会議②（担々麺販売））
- ・ブース裏（ルナホール側）からテントのひもをほどいて出入りをしていました。注意をしたがその後も改善されていなかった。その中に子犬を連れていた方がおられました。（さかい酒店と書かれたTシャツ着用 ペットの持ち込み可能か？）

- ・ 出店テント裏側にたばこの吸い殻が数本落ちていたテントが2つほどあった。
- ・ 1日目の夜、ゴミ回収が終わった後に、分別をせずに放置されたゴミがあった。
- ・ 最終日、ゴミステーションの整理中に売れ残りと思われる値札のついたベビー椅子などが置かれていた。

【一般来場者】

- ・ ゴミ箱の分別ができてない方が一部あった。
- ・ テーブル、ベンチ下にゴミを落としている人が少なくなかった。

【清掃ボランティア】

- ・ 年に1回、ボランティアに来られる個人の方、団体で来られる芦屋川カレッジ卒業同期生の方々など、年々顔なじみが増えている。
- ・ 今回はオリエンテーションを別日に設けた。参加者は24人、全員参加とはならなかったため、間違った情報を伝え聞いていた方がいた。
- ・ 当日ボランティアは2時間区切りにしたのは好評だった。

【会場に関して】

- ・ 例年に比べて来場者が少なかったせいか、ゴミが少なかったが、汁物のザルにミンチのアンカケ状のものがこびりついて取りにくかった。
- ・ 敷物（ブルーシート）や、テーブル、椅子、クッションを置いて帰っていた。

8. 今後の対応

【実行委員会】

- ・ 初めての試みであったが、基盤は出来たので、来年度以降への継続を期待する。

【出店者】

- ・ 清掃ボランティアとして参加を出店条件にすることを昨年に続き提案する。
- ・ 飲食テントから出る竹串や、発泡スチロールをエコ回収できるよう啓発する。

【会場及び来場者に関して】

- ・ ゴミの分別を広く呼びかける。
- ・ 帰宅途中でもゴミ箱以外のところに捨てない、モラルのある対応を期待したい。

9. ボランティア参加者からの一言

- ・ 年々、市民の皆様のマナーが向上しているように感じます。
- ・ パンフレット（税金関係）のゴミがかなりあった。捨てられるものは配布しない。
- ・ マナーが良く、拾うゴミが少なかった。
- ・ 疲れしました。皆さんに喜んでいただけました。

※「マナーが良い」という意見が多数あり。

以上

【実行委員会】



【オリエンテーション】



【ボランティアテント】



【ゴミステーション】



日本世代間交流学会第9回大会ワークショップ

- 1 開催日：平成30年10月6日（土）
- 2 場所：武庫川女子大学教育館
- 3 参加者：小泉実行委員長 金木副実行委員長 谷垣（甲南高校 他1人）精道中学校支援ボランティア数名 徳永・武藤（神戸新聞社） 杉田（芦屋市身体障害者福祉協会） 橋野 横山
- 4 参加団体：芦屋777プロジェクト こえる場 あしやキッズスクエア 精道小学校 smile ねっと アトリエにっち 芦屋市まちづくり協議会 芦屋コミスク あしや聖徳園 にこにこ食堂 西宮市青少年育成市民会議

5 当日の流れ

12:30 集合 設置 展示 15:00 コーナー発表 16:00 発表者による交流会

6 準備物

【展示物】

- ・ポスター（A1版） ・タオル : 商工会
- ・看板（県芦作成体育館掲示）：狩谷先生
- ・子どもの絵 ・Tシャツ：金木
- ・新聞記事（模造紙1枚）：神戸新聞社が準備し、リードあしやで印刷
- ・子ども新聞（新聞展のポスター、新聞5枚、冊子2冊）：リードあしや
- ・缶バッチ（看板） ・プログラム両面（模造紙1枚）：リードあしや

【動画】

- ・8月27日当日のスライドショー（5分弱）：商工会
- ・キックオフから振り返り会までのスライドショー（10分）：リードあしや

7 振り返り

- ・午前中の特別講演、大会企画シンポジウム後の各会場に分かれてのポスター展示と発表であり、参加者が分散していたため、会場展示団体以外の見学者が少なく感じた。
- ・団体発表者の交流会では、参加者全員が発表者を囲んで行われた。時間内に他団体の様子を見学するゆとりがなかったが、交流会で他団体の活動が聞けて、また

芦屋 777 プロジェクトもわかっていただき、良い時間を持てた。

- 1年ぶりにボランティアを含め芦屋 777 プロジェクトの運営者が集まり、旧友を深めるとともに、次回へ向けての前向きな意見が出てきた。



夏休み！わくわくスペシャル

- 1 実施日：平成30年8月6日（月）～10日（金）5日間
- 2 担当：出口
- 3 参加者数：子ども184人 11団体48人
- 4 参加団体：資料①参照
- 5 プログラム：11コマ（プログラム参照）
- 6 振り返り

【プログラム】

- ・昨年実施した団体が多かったため、団体主体で企画の打ち合わせができた。
- ・プログラム実施団体のメンバーが1人であったため、フォローが必要な子どもにつくことができず、センター職員がカバーする場面があった。
- ・中学生の茶道体験は両校とも、人にものを伝えることで自分たちが改めて学ぶことができた。
- ・参加者は1週間に複数日参加している子が多く顔見知りになり、学校を超えた友だちができ、ふれあいカフェでゆっくり話をしている姿が見られた。
- ・満員のプログラムと応募が全くないプログラムがはっきりしていた。夏休みの宿題になるものは人気があり、学びになるものはあまり人気がない傾向にあった。

【ふれあいカフェボランティア】

- ・メニューの見え方、集客の方法などを話し合い、アイデアを出し合って、良いカフェにする努力を自分たちで考えることができ、ボランティアへのやる気と意欲を感じた。
- ・学校も学年も違うグループでボランティアをすることで、子どもたちの交流の場になった。
- ・ボランティアに応募せず、実際のボランティアの様子をみて興味を持ち「やりたい」という子が多かった。やらせたい保護者も多かった。
- ・当日プログラムがない子が数名、ふれあいカフェに遊びにきてくれた。子どもたちの居場所づくりになっていた。

【実施団体】アンケート原文のまま記載

- ・参加者が少なかったなので、来年は無料で実施したい。（精道中茶道部）
- ・定員20人にしていましたが8人だったので、少ないなあと思いましたけど意外に一人一人に手がかかりました。人数がもう少しの方がいいと思いますが、こちら側の体制を考えなければと思いました。（遊遊）

- ・来年は補助スタッフを探して充実した指導に取り組みたい。(一粒の会)
- ・講座の内容について検討する必要があると思った。子どもにとって興味を引くものではないと思った。(日本現代作法会芦屋支部)
- ・昨年も来てくれた子がいたので、今回は内容をバージョンアップさせたい。(コープこうべ)

【ふれあいカフェボランティア】

- ・もう少し広いスペースがいい。
- ・ジュースの飲めない赤ちゃんには赤ちゃん用のコップを渡せたらいい。
- ・子どもも50円ぐらいしたら、もっと売り上げがでると思う。
- ・もっと(長い時間)やりたかった。・子どもは10円だったらいいとおもいます。
- ・たくさんきてくれてうれしかった。・はずかしがらずにすぐ行く。
- ・来場者に「ありがとう」をいうのをわすれていたから今回は言いたい。
- ・一人じゃはずかしくてできないと思うけどみんなと一緒にならすごく楽しかった。
- ・もっとイスをふやしたほうがよい。・みんなでもう一回ボランティアをしたい。

【担当者】

- ・新たな団体にプログラムを依頼し内容を一部変更しようとしていたが、昨年実施した団体より希望があったため毎月実施しているふれあいカフェをお願いしたが、結局2つプログラムが増えてしまった。
- ・団体との打ち合わせはほぼスムーズに行うことができた。
- ・広報は団体でもすることになっていたが、出来ていない団体もいた。リードあしやが広報をしようと思っていた団体があった。今回は強調して説明をする。
- ・事業自体人気が高く、受付開始前から問い合わせがあった。
- ・プログラムにイメージ写真(工作ならば完成品)を掲載していたので、子どもたちにも何をやるかが良くわかったという声があった。
- ・今回初めてボランティア体験を実施したが、予想外に関心が高かった。体験中の子どもたちの顔はいきいきとしてとても楽しそうだった。次年度はその気持ちを続けていけるような企画を考えたい。
- ・応募していない子が実際のボランティアをみてやりたいと興味を示したがカフェの体験ではなく、宣伝や案内のお手伝いをしてもらった。
- ・参加者とのふりかえりで、売り上げはどのように使うかということを知りやすく伝えた。次の日から前日話を聞いた子が、次の子に伝えてくれた。次回説明する資料を用意し、家庭でもふりかえることができるようにしたい。

【当日の様子】

8月6日（月） 1日目



わくわく茶道教室 芦屋市立精道中学校



夏休み感想文教室① 一粒の会



打ち水 あしやエコクラブ

8月7日（火） 2日目



作って、遊ぼう ぶんぶんごま！ 遊遊



粘土の夏モチーフでフォトフレームを作ろう！

R&ashiya

8月8日(水) 3日目



トトロの折り紙絵本を作ろう！ トミ&ヨシ



夏休み感想文教室② 一粒の会

8月9日(木) 4日目



お友だちのお家にまねかれたら？
日本現代作法会 芦屋支部



お笑い子ども英会話
芦屋市障害者福祉協会



茶道を体験してみよう 芦屋市立山手中学校

8月10日(金) 5日目



さあ、お絵描きだ。全員集合！
～夏休みの絵を描こう！～
こころのアトリエ・ハーティスト



ゲームで学ぶ防災
～もしも地震がきたら「食べ物編」
コープこうべ第2地区活動本部
防災仲間づくりの会

ふれあいカフェボランティア体験



冬のふれあいギャラリー

1 実施日：平成30年12月8日（土）13：00～16：00

2 担当：阿部

3 来場者数：150人

4 参加団体：11団体（35人）

5 目的：市民活動をしている方と市民の皆さんとの出会いと交流を図る。

6 実施内容：団体・個人の活動内容の展示・販売

「日本スリランカ友の会関西」スリランカの現状の説明、「NPO法人「絵本で子育て」センター」クリスマスの絵本を読み聞かせ、「遊遊」手作り絵本を読み、ぶんぶんゴマの遊びを紹介、それぞれの体験

参加団体から提供のプレゼントが当たるスタンプラリー

カフェをオープン

当日の感想を記入した方に県立芦屋高等学校の書道部「しおり」プレゼント

7 評価：参加団体からの広報もあり多くの来場者があった。「リードあしや」の周知にも繋がり、市民の方、団体同士でも活動内容の理解を深めた。

8 成果：各団体、活動内容の新しい目標ができるなど意欲が出たようだ。

来年の改修後に全館利用し「冬のふれあいギャラリー」を開催したいという、事業拡大の要望があった。来場者はスタンプラリーをきっかけに参加団体と交流し、活動内容に理解を深めた。

販売を実施した団体は活動資金を得る良い機会となった。

学生ボランティアは市民との交流を楽しみながら、自分達の活動に自信を持ったようで、次回のボランティア参加にも意欲的だった。

9 振り返り

【参加団体】（アンケート原文の通り記載）

・リレーフォー・ライフ・ジャパン芦屋実行委員会

他団体のメンバーの方でも、リレーフォー・ライフ・ジャパン芦屋のことをご存じない方が多く、もっとPRに努めたいと思います。他団体と交流ができた。

売上金額：500円（1個）

・NPO法人「絵本で子育て」センター

参加させて頂きとても楽しかったです。いつもの活動そのまま気軽に参加させて頂きました。イメージがわかったので、次回はもっといろいろな方を誘います。甲南高校のボランティアの方も含め、とても明るく丁寧に接して頂きました。たく

さんの団体のつながりの方と交流することができて、とても暖かい気持ちです。
こういう方達とならいい世の中にできる！（子どもたちの未来のために） 売
上金額：4,400円（4冊）

- ・日本スリランカ友の会関西

開会宣言まもなく大勢の来客があり活況を呈した。特に交流スペースでの展示販売で購入されたお客様がリピーターとなって指定買いされるケースも多く見られた。試飲サービスの効果も大いに手応えあり。事務局と参加団体のPRが両方相まって一定の盛り上がりが達成できたのではないかな。

スリランカの活動をPRすると共にスリランカの関心を抱いている人たちでの質問にも答える事ができる良い機会である。また活動費用を稼げるいい販売機会だ。
売上金額：34,000円（70個） 体験参加人数：大人11名

- ・ランサーン会

予想よりたくさんの人に来て頂いた。ラオスを知らない人が多かったが、知ってもらって良かった。 売上金額：26,900円(22点)

- ・遊遊

他団体との交流ができてよかった。オリジナル作品を作る、そして見てもらうという概念だけだったが、「ほしい」という要望を聞いて、売るということも考えていけると思いました。忙しかったけど楽しかった。

次の目標に向かって作品を作る意欲が感じられたので、来年も参加したい。

- ・船越恵 アレクサンダーテクニーク

今後につなげていけるよう活動していきたいと思います。リードあしやを利用して来ている事、アドバイスも頂きありがたい場所です。

- ・トミ&ヨシ

最新のオリエステルを紹介できてよかった。干支のいのしし、福笑いも楽しんで頂けた。

- ・アトリエ・ノリコ

売上金額：5,500円(5点)

- ・芦屋折り紙会と芦屋マクラメの会

ありがとうございました。次回あれば販売もしたい。

- ・NPO法人兵庫県暮らしにやさしい防災・減災

売上金額：4,100円（4個）

- ・高齢者支援生きがいディサービス

とても楽しかった。 売上金額：20,750円（35個）

【甲南高校 ボランティア】（アンケート原文の通り記載）

- ・思ってた以上に楽しかった。色々な人と話をしたいから、来年も参加したい。
- ・様々な芦屋市民の方々とふれあえて満足。
- ・色々な年代の方や海外の方とも交流でき、貴重な体験ができると思うので来年も参加したい。
- ・興味深かった。Interesting！！
- ・やってみると意外と色々な人とコミュニケーションが取れるようになっていたことに、自分でも驚いた。色々な人と楽しくお話しできて楽しかったです。

振り返りミーティングより

- ・「がんばって」と声をかけてもらい、自分を認めてもらえて自信がもてた。
- ・「ボランティアは「笑顔」が大事！がんばって」と言ってもらった。
- ・いろいろな団体がいるんだなと思った。地域の活性化になっていると思った。
- ・「芦屋フォークダンス協会」から直接ボランティアの依頼がきた。先生と話し合っ
て活動していきたいと思う。

【担当者】

参加団体より以下の改善点を求める意見があり、次回に反映する。

- ・もう少しPRできたら良いと思った。
→質問等を加え活動内容の理解を深める。
- ・もっと一般市民の皆様が来て下さると良かった。
→学校園への広報も検討し、様々な世代に来場してもらおう。
- ・ミニ講演の会場が狭い。せめて20～30人程度収容できるスペースでのミニ講演を次回は開きたい。→改修後は、利用スペースを検討する。
- ・参加スタッフの荷物の置き場所が狭いスペースしかなかった。→団体の利用可能スペースの拡大をする。
- ・事前の詳細については余裕をもって知らせてほしかった。→参加団体に追加でスタンプラリー案を出した事で混乱させた。参加受付時に、全ての内容を伝えるように改善をする。
- ・たくさんのアドバイスとサポートもあり、無事に終了することができた。全ての団体に平等に接する事、団体の想いを大切にすることを学んだ。

【参加団体・ボランティア】



NPO 法人「絵本で子育て」センター



NPO 法人兵庫県暮らしにやさしい防災・減災



アトリエ・ノリコ



トミ&ヨシ



リレーフォー・ライフ・ジャパン芦屋実行委員会



芦屋折り紙の会と芦屋マクラメの会



遊遊



高齢者支援生きがいサービス



船越恵 アレクサンダーテクニック



日本スリランカ友の会関西



ランサーン会



甲南高校 ボランティア



甲南高校 ボランティア



甲南高校 ボランティア



甲南高校 ボランティア

【当日の様子】



第2回災害支援の現場で私たちはどう動く？

- 1 日時：平成30年7月14日（土）
- 2 進行講評：津久井 進 弁護士
- 3 参加者：16人（朝日ヶ丘自主防災会、芦屋市社協、呉川町次週防災会）
- 4 目的：実例をもとに作られた設問に想像力を働かせながら、判断力を鍛え、決定のプロセスを築いていく。
- 5 内容：グループで自己紹介、クロスロードゲーム、意見交換
各グループの振り返り
津久井氏の講評
- 6 成果：第1回の参加者が4人ほどで、新しく自主防災会や社協からの参加があった。

クロスロードの設問が起こった前提で回答が変わる、状況判断を余儀なくされることを理解し、気づきとなった、いろいろな立場の方の話をお聴くことは大切だとグループの振り返りからは出ていた。

津久井氏の話の中に「自分毎として捉える（想像力）」「平時モードではない（自分の頭で考える）」「忘れない（学び、制度）」の3つが大切だと言われたことが参加者の心に残ったようだ。

- 7 アンケート：セミナーは全体としてよくわかったが、全員気づきがあったが、12 わからなかったが1気づきの内容は以下の通り
 - ・はじめての体験で楽しんで参加できました。
 - ・考え方の相違
 - ・意見決定プロセスの重要性
 - ・物の考え方の多様性
 - ・「ああ、そういう点では Yes、No だな」と自分の反対意見を聞いても納得することがあった。他の人の視点も大事。
 - ・クロスロードゲームは、想像力を働かせその時の状況判断が必要になる。人それぞれの考え方を聞くことにより、いろいろな知恵が浮かんでくるととても良い体験でした。
 - ・立場、経験（職種）により、考え方が異なること。
 - ・お互いの考えを知るのに、いいツールだと実感した。

- ・ いろんな考え方、立場、その時の状況で同じ問題でも変わってくる。想像力を働かせて、いろんな可能性をさぐる必要があると思う。
- ・ 自分で判断することの大切さ。立場が違う状況を考えることによって視野が広がったと思う。
- ・ 自分の考え方の傾向がわかる。いろんな方の考え方を知れた。

災害支援・受援に関する事で知りたいこと

- ・ 「受援力」気になっています。地域での支え合いの活動が課題です。
- ・ 訓練のノウハウ
- ・ 会社の支援物資の提供窓口
- ・ 庁内の防災活力の意識向上のために出来ること
- ・ 体験談やシミュレーション



第3回「災害支援の現場で私たちはどう動く？」実施報告

- 1 日 時：平成30年9月15日（土）10：00-12:00
 - 2 場 所：あしや市民活動センター 会議室C・D
 - 3 進行講評：津久井 進 弁護士
 - 4 参加者：18人（申込21人）
 - 5 目 的：クロスロードゲームの設問を芦屋の状況を想定しながら様々な立場の人の状況を想像し、ジレンマについて対話を通じて判断力や行動力を高める。
 - 6 内 容：芦屋の強みや弱みなど特徴を洗い出し、設問を考えるための人（立場）、場（どこで起こったか）、状況（どういう状態であるか）の視点から考え設問を想定する。設問をグループ間で交換し、ゲームを試みる。設問づくりを通じて議論を深める。
 - 7 アンケート：回収14件
 1. 災害支援・受援への理解は深まったか
よく深まった 9 だいたい深まった 5 よくわからない 0
 2. クロスロードゲームは自団体に活用できそうか
大いに活用できそう 7 活用したい 6 わからない 1
- <具体的に>
- ・地域の防災連絡協議会を立ち上げましたので啓蒙活動のツールとして使いたいです。（協議会は）自治会、自主防災会、コミスク、PTA等と連携しています。
 - ・コープこうべの組合員活動の際にやってみたい。
 - ・参加者の様々な角度から意見交換ができ良かったです。ありがとうございます。
 - ・職場や職能団体に、防災に関わる研修等で使えるかも。
 - ・短時間で素晴らしい問題ができたと思います。
 - ・見えそうに思うが、まだ具体的なイメージが湧かない。
 - ・イベントの時にワークショップの課題にできたらと思っています。
 - ・コープこうべ第2地区活動本部では地域の方、コープこうべ組合員などの集いにこのゲームを使用したい。
 - ・わが町の自主防災会の役員等対象に実施できればと思っている。
 - ・津波一時避難所の課題についての議論、そのルールがないことなど。

<次回のセミナーでききたいこと>

- ・自主防災会の活動を地域住民の方たちにより理解してもらうためにはどうすることが効果的か。
- ・その設問を通じて学んでほしいこと、色々な意見がある以外で。

振り返り：クロスロードゲームの設問はある立場の人の置かれたジレンマを問うが、設問に答えるより設問を考えるのは非常に難しい。なかなか設問がでないのではと思われたが、各グループとも興味深い設問を考えだしていた。クロスロードゲームは勝ち負けを決めることではなく、その議論のプロセスを共有し多様な意見があることを知ることと、協働する関係性をつくるきっかけをつくることである。

この夏は豪雨災害や地震など地域で災害が多発したため、参加者には被災が切迫性をもって受け止められていた。そのため、参加者からは当事者としての実感のこもった設問が考えだされたように思う。次回のセミナーで、つくった設問とそれに関わる議論についてトークセッションで取り上げ深める予定だ。



設問について話し合う参加者



設問の考え方を説明する津久井氏

次回、「災害支援の現場で私たちはどう動く？」講演&トークセッション

(11月23日 13:30~16:00)

講演：李仁鉄氏（にいがた災害ボランティア支援センター 理事長）

トークセッション：李仁鉄氏、津久井進氏

今回は単発参加も受け付け、広く来場者を募る。

第4回「災害支援の現場で私たちはどう動く？」

- 1 日 時：平成30年11月23日（金・祝）13：30－16：20
- 2 場 所：あしや市民活動センター 会議室C・D
- 3 講 師：李 仁鉄氏（特活）にいがた災害ボランティアネットワーク理事長
- 4 進 行：津久井 進 弁護士（特活）あしやNPOセンター 監事
- 5 担 当：奈良
- 6 参 加 者：19人（申込21人）
- 7 目 的：災害が起こったとき市民として市民社会としてどう考え行動すべきか、
数々の現場を経験してきた講師らとともに学ぶ。
- 8 内 容：講演、トークセッション、参加者との対話
アンケート結果：回答数15件（チェック欄は13件）
講演の評価：よくわかった（11） だいたいわかった（2）
トークセッションの評価：よくわかった（9） だいたい
わかった（4）



自由記述

- ・講師に興味があり、参加しました。
- ・李先生のスライドの話しをもっと知りたかった。津久井先生の災害と法の授業もあると参加したい。クロスロード芦屋版をぜひ書籍にしてほしい。もらいたい。
- ・生の声をきけてとても良かった。
- ・実体験に基づいたお話し、大変参考になりました。被災者中心、地元主体、協働の支援の3原則の大切さを再認識しました。
- ・災害は当事者以外ひとごと。自助が原則の考え方で共助の意識をもつことが必要と思う。ただ災害を前提として自主防災組織は常に動いている。
- ・「災害の為」をツールとして日常の中でのコミュニケーションのネットワーク作りの話しは参考になった。
- ・災害時にどう動くというより、日常のコミュニティの中でどう生活しているか、安心して暮らせる街をつくるのが大切であるというのは目からウロコでした。
- ・今までのセミナーでは、発災直後の事例が多かったが災害、時間経過をトータルでとらえた話しで、具体的でもあり、非常に参考になりました。
- ・上手に助けを求めましょう。「受援力」について考えを変えないと思いました。
- ・最後の支援力と受援力は人と人との関係にあるというのはとても共感します。関係性につながりが地域福祉の核だと思います。災害時のために、平時からが大切

ですね。

- ・自分の疑問点の整理ができました。「福祉」が我々の持っているイメージになったのは、福祉＝社会福祉＝社会福祉法第2条の定義(そこから、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、売春防止法、などへいくのですが、)になってしまったのではないかと考えてしまいます。(福祉と社会福祉法第2条の定義は別物なのですが)
- ・当たり前のことだけど、改めてあくまでも一番大切なことは被災者が真ん中にあるということ、助ける人と、いつもつながっていることが自立につながることに、ボランティアは気づき、傾聴が大切だということ、想像する力→自分の頭で考える→実践する



- ・被災者を中心にするのですが、突然の災害でのルール、決まりなどでしぼられ、なかなか人に寄り添うむずかしさ、を現場からの目線でのお話し貴重な経験を聞かせていただきました。何が正解なのか答えなのかは、その実態の中で間違っていることには声を出す、伝えることの大切さ、必ず真ん中には被災者をぶれずに。
- ・支援者の支援という部分で学びたいと思い参加しました。人的支援は難しいので、NPOをはじめとした支援団体が活動を継続しやすくするためにどういった制度や意識が必要なのかといった、環境面について多くのヒントをいただきました。組織運営や事務が主になりますが、細々と続けていこうと思います。「公共の福祉」のお話し、「公平と公正」「公平と平等」のお話し、憲法のお話を聞いたのもよかったです！昨日、一昨日と、神戸大学でインクルーシブのお話しを勉強していました。(授業らしからぬ、とてもユニークな手法で、化学反応がバシバシであるような素敵な空間でした) 排除の論理についても本日の学びで深めることができました！やっぱり最後は人間関係が大事なのかなと改めて感じました。

振り返り：

李さんのお話しは聞き手にわかりやすく伝わった。その理由として、(1)現場の様子が目に浮かぶリアル、(2)ハッと気付かされる示唆深さ、(3)誰もが納得できる整理された分析、の3点が挙げられる。また津久井さんは、法律家の立場から市民社会と支援・受援の関係性を切り結び、李さんの視点を引き出した。本セミナーを通じて、個々の市民としてあるいは自主防災会や自治会、行政、社会福祉協議会などの社会的役割をもつ立場から、平時のコミュニティや人間関係づくりがいかに重要かを問えた。それぞれの実践の場で生かしてもらえるのではと期待している。

地域課題を解決するコミュニティ・ビジネス報告書

1 実施日：平成31年2月23日（土）

2 担当：横山 宗助

3 参加者数：81名

（一般・団体67人、ゲスト1人、スタッフ11人、他2人）

4 内容

(1) 目的：主に芦屋市内で地域課題解決のために市民活動を行う団体に、芦屋市の人口統計等を深く知っていただき、今後の活動を活発にすること

(2) テーマ：地域課題を解決するコミュニティ・ビジネス

(3) 内容：講演会

第一部＞芦屋地域の地域課題・人口統計等の講演会

藻谷浩介氏（著 里山資本主義）

第二部＞参加者同士の座談会・交流会

あしやNPOセンタースタッフによるファシリテーション

(4) 振り返り：

- ・広報にフェイスブック広告、共催に日本政策金融公庫など新しい試みを実施し集客、内容ともに良い結果となった。
- ・アンケート結果としても満足、やや満足で100%となり、顧客満足もよかった。
- ・定員50名は越えたが、申込者の約2割が欠席となり、空席が10席ほどできてしまった。
- ・講座内容に、芦屋の人口統計の考察がありそのオリジナリティが参加者に好評だった。
- ・100人会議でも実施しているグラフィックレコーディング、動画撮影も実施した。
- ・県政150周年事業25万円、日本政策金融公庫の協賛金9万円と新たな収入を開拓した。
- ・市内掲示板の掲示が講座2週間前からだった。ネットでのリーチよりチラシポスターでのリーチを先行したほうが、参加者管理、ターゲットが良かった。

(5) 効果：

- ・日本政策金融公庫と2019年度以降も、共催事業を進めていく。

- ・参加者の中にCBのシーズがいたので支援していきたい
- ・ネット広告により20000リーチを超えたのであしやNPOセンターの知名度を大きく伸ばせた。



災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議総社市災害支援

- 1 日時：平成 30 年 7 月 14 日（土）6:20~19:30（活動時間 9:00-16:00）
- 2 場所：岡山県総社市下原地区
- 3 内容：被災家屋のがれき撤去と集積場への運搬
- 4 主催：ひょうごボランタリープラザ
「災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議」
- 5 参加者：33 名（連絡会議のメンバー16 名、一般災害支援の熟練ボランティア 14 名、ボランタリープラザの職員 4 名、神戸新聞記者 1 名）
現地ボランティア約 300 名

6 被災地の状況

下原地区の住民は 500 名ほど。現地は川の氾濫によって、やや高地になっている地域以外がほぼ浸水被害に遭っている。その上、地区内にあるアルミニウム工場の爆発で家屋のガラスが破壊（ほぼ 100%）され、片付けを困難にしている様子だった。浸水は（場所にもよるが）120 センチほどで車や農機具などが全滅しており自家用車での搬出が難しいところが多い様子だった。集落に入る道はメイン道路 1 本と脇道がある。

7 活動概要

ボランティアセンターサテライトは下原公会所。8 畳ほどの狭い建物でボランティア受付と道具類の手渡しなどが行われていた。手袋や靴（釘踏み抜き防止用）は雑然と積み上げられ、ボランティアも支援スタッフも入り乱れ、誰も統括している様子は見られず混乱気味に感じた。

がれきの撤去と搬出作業（男性 11 名、女性 1 名）

2 トントラックに大まかに分類しながら積み込み作業後、車で 5 分程度のところへ運び込む。地区内での入り込みを制限するため、交通整理が始まったが、混乱状態が続いた。15 時すべての活動が終了。神戸には 19 時 30 分ごろ帰着した。

8 気づいたこと

- ・災害直後、ボランティアセンター立ち上げてまだ仕組みが整いきっていない状況では、臨機応変に動ける熟達したボランティアが有効。詳細な説明はあまり必要でない。ただしリーダーが事実上いない状態になるので全体で見ると効率的でない場面もある。
- ・熟達したボランティアたちは兵庫で活躍する仲間同士ですすでにチームビルディ

ングができていたが、逆に新しい人は入り込みにくい雰囲気ではある。(仲間内だけで盛り上がる)被災地を転々と活動する方もおり、ある種の業界みみたいな状況が生まれているのかと思う。すそ野を広げていくためには、熟達したチームに新たな人を巻き込むコーディネーションができると後継者(?)が育つのではないかと感じた。

- 事前のリサーチが重要。今回の活動では事前に聞いたニーズと役割にかなりのずれがあった。シャベルなどを持ち込んだが土砂の流れ込みはほとんどなかったため使用せず、むしろ家財道具の処理のためくぎ抜きや金づち、ガムテープなどの道具が必要だった。
- 2トントラック1台のピストン搬出で、積み込み作業に11名もいらず半分程度でもよかったのではないか。(結果論だが)
- ボランティアの入り込みとともに、全体の流通(人、モノの流れ)を整理しておく必要があった。特に道路状況はほとんどオーガナイズされていない状態で、かえって作業の非効率化を招いていた。
- ボランティア休憩所に、終了後も大量のおむすびや菓子パンが並んでいたが手を付ける人は少ないように思えた。(おそらくその日で廃棄されるのでは)
- センターに戻っても報告、引き継ぎ、振り返りなどがなく、やりっぱなしになっていた。(記録もなし)
- 全容がつかめない状況下で活動を始めにしても、流れのなかで全体を把握し、よりよい活動にしていく仕組みを徐々に作っていくようにできればよいのではと感じた。

広島市安佐北区ボランティアセンター支援

- 1 日 時：平成 30 年 7 月 16 日（月）
- 2 支援箇所：広島市安佐北区深川小学校ボランティアセンター
- 3 参加者：橋野 横山 金子
- 4 目的：災害支援現場にボランティアスタッフとして支援
- 5 内 容：2300 世帯、150 の災害現場の内 50 ヶ所の対応
スタッフとしてボラセン運営支援
(災害現場のニーズとボランティアのマッチング、現場への物資運搬等)
7 月 16 日に来られたボランティアは 188 人
<あしや NPO センタースタッフの 1 日の流れ>
 - ・ 6 時芦屋出発、10 時広島到着
 - ・ 10 時物資（マスク、軍手、水等）を渡し、～16 時ボラセン運営支援
 - ・ 16 時～市内被災箇所を見分
 - ・ 18 時安佐北区社協事務局長に支援金と弁護士会作成被災者しおり譲渡
 - ・ 20 時広島出発、23 時 45 分芦屋到着
- 6 見分事項：近隣の自治会と区社協が協働で開設したボランティアセンターであり、リーダーシップを自治会が取り、区社協が支え、近隣住民がスタッフとして運営している形であった。
 - ・ ボランティアの流れとしては、受付→注意事項→ニーズ把握→グループ作り→現場へ移動→終了後報告等→解散であり、入口にて、おしぼり、水、キュウリ、トマト等の配給があった。
 - ・ 扇風機による空気循環、うがい、手洗い、長靴洗浄など衛生面への配慮が多くみられ、ボランティア休憩所は体育館の 1/3 ほど設けていた。
 - ・ 体育館内ではトイレが男女共有となっており、交代で利用するしかなかった。
 - ・ ボランティア受付において、希望等アンケートが欲しかった。
- 7 成果：地域の支援ボランティアセンターを芦屋で立ち上げる場合のシミュレーションとなった。問題としては、区社協が自治会に遠慮をして、物事が進んでいないようにも見えた。
- 8 今後：センターでの支援金は継続し、現場の状況に合わせて、物資、支援金を届けられる体制を組む。



西日本豪雨災害による災害ボランティア（岡山県倉敷市）支援報告

- 1 日 時：平成 30 年 8 月 7 日（金）
- 2 場 所：岡山県倉敷市の被災地
- 3 参加者：横山
- 4 目 的：災害支援現場にボランティアスタッフとして支援
- 5 内 容：

(1)行程

- 6:30 芦屋市内集合
- 9:00 岡山県倉敷市到着（日中活動倉敷市内）
- 14:00 活動終了
- 15:00 出発 芦屋にむけて出発
- 20:00 芦屋到着

- (2)実施：主体は、芦屋市社会福祉協議会。参加者は約 15 名で社協職員、大学生、シニアが中心。参加者大半は災害ボランティアの経験が少なかったが、現地ボランティアセンタースタッフが、ボランティア受け入れに慣れており、チーム分け・役割分担（リーダー、タイムキーパー）などがスムーズに的確に行われていた。安全な範囲（熱中症などにならない）で、実働ができるようになっていた。現場ルールも確立していた。（自身は元気でもタイムキーパーの指示で休憩しないと、周りとの協調がとれないので強制的に休憩させるなど）マスク、軍手は一括で用意した方が効率のよいものは実施主体側で用意しておいても良いのではと感じた。意義のあるボランティアではあったが、中型バス貸し切りで 15 人参加、短時間作業となってしまうので、募集方法などの工夫は必要だと思った。

- 7 成果：終日土砂災害現場でのかきだし作業、土嚢袋への詰め込み・運搬作業。現地スタッフ、住民に感謝された。芦屋市で災害が起きた際のシュミレーションとなった。
- 8 今後：講座などより、災害現場でのボランティアが一番の学びになると感じた。今回は参加者が少なかったなので、実施主体がどこであれ多くの市民が参加できるよう広報支援をしたい。